

あけましておめでとうございます

平成29年初頭にあたり一言ご挨拶申し上げます

新年あけましておめでとうございます。

昨年10月17日、おかげさまで私たち法人は創立70周年を迎えました。社会福祉法人の在り方が問われている流れの中にあって、本年4月からは大幅に改正された社会福祉法が施行されます。経営組織のガバナンスの強化・地域における公益的な取組み・財務規律の強化など、改正法の目指すところは、地域の方々の信頼を得てこそ存在しうる私たちにとって、未来に向かって地域と共に発展していくための命題であると受け止めています。

私たちは「ひとりの幸せのために」という諸先輩方から受け継いだ法人の原点に立ち返り福祉サービスの充実を図っていくことを再確認し、職員一丸となって地域社会に貢献し続ける決意を新たに致しました。

本年も皆様におかれましては一層のご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

理事長 本間 英典

Vol.
20

年頭のごあいさつ（理事長）…………… 1

専務理事あいさつ …………… 2

第11回 近藤正秋賞・片岡好亀賞 …………… 3

創立70周年記念・物故者慰霊祭 …………… 4～5

各施設の近況 …………… 6～12

専務理事あいさつ

謹んで新春のお慶びを申し上げます

明けましておめでとうございます。

あの忌まわしい事件から半年が経とうとしています。昨年7月26日未明、相模原市の障害者支援施設に刃物を持った男が侵入、入所者などが次々と刺され、多くの方が犠牲となりました。

犯人の男は当該施設の元職員で、障害者に対し偏執的な考えを持っていたこと、大麻精神病により措置入院したことなど、歪んだ犯人像が明らかになってきました。

厚生労働省において再発防止検討チームが設置され、中間報告がまとめられました。検証の中心は、措置入院、入院中の治療、僅か12日での退院、措置解除後の対応など、事件の主な原因を精神疾患による危険思想を持った者の凶行と結論づけている感があります。

何故そのような者を採用・雇用し続けなければならなかったのか、職場環境に問題はなかったか、といった福祉現場にある様々な課題についても検証されなければなりません。さらに申し上げれば、教育のあり方まで掘り下げる必要があると思います。

検証中、入院判断に関わった精神保健指定医の1人が資格を不正取得していたという重大疑惑が浮上、その後の全国調査で多くの医師の不正取得が判明しました。これは精神保健医療がいかに脆弱であるかを表しているのではないのでしょうか。

昨年4月から障害者差別解消法が施行されました。法の目的は、障害のある人もない人も、互いにその人らしさを認め合い、共に生きる社会をつくることを目指しています。

私たち関係者にとっては、決して忘れてはならない事件であります。施設利用者の安全・安心を守ることは当然として、意欲を持って職責を果たして行けるような環境づくりにも努めなければなりません。

新年早々暗い話題で申し訳ありません。本年もよろしくお願い申し上げます。

専務理事 近藤正臣

愛盲報恩会

第11回 近藤正秋賞・片岡好亀賞

○12月10日（土）、ノーベル賞授賞式と同じ日に、名古屋盲人情報文化センターにおきまして第11回近藤正秋賞・片岡好亀賞の贈呈式を行いました。

近藤正秋賞は、藤野克己氏（全国視覚障害者情報提供施設協会事務局長）に推薦していただきました山田智直氏（視覚障害者生活情報センターぎふ館長）を選出しました。山田氏は、名古屋盲学校普通科を卒業とともに、岐阜訓盲協会愛盲館職員となり、（施設入職30年目）館長に就任して3年目の、施設生え抜きの若き数少ない当事者施設長であり、全視情協理事としても活動され、視覚障害者情報提供において今後ますますの活躍を期待しての選出となりました。

片岡好亀賞は、長岡英司氏（日本点字図書館副館長）に推薦していただきました立花明彦氏（静岡県立大学短期大学部准教授）が選出されました。立花氏は、大学卒業後、リハ施設の指導員、日本点字図書館職員を経て、大学で学生の指導、研究に従事、ハンセン氏病患者の読書環境、本間一夫

の文献発掘など点字図書館の発展過程に光を当て、本間一夫生誕百年には「本間一夫と日本盲人図書館」に研究成果を発表するなど、今後の更なる研究活動を期待しての選出となりました。

地域活動特別賞は、田中伸明氏（名古屋市視覚障害者協会会長）に推薦していただきました柳田盛生氏（名古屋市視覚障害者協会監査）です。柳田氏は、名盲連青年部長、長年休止状態だった千種区身体障害者福祉会を再開し会長への就任、現在も名視協監査として活動されるなど長年にわたる障害者団体活動への尽力を評価しての選出となりました。

また、今回は、リオデジャネイロパラリンピック、柔道60kg級において、みごと銀メダルに輝いた名古屋盲学校教員の廣瀬誠氏に「スポーツ特別賞」を贈ることになり、当日もメダル持参でお越しいただき喜びの声を聞くことができました。

○「愛盲報恩会 近藤正秋賞・片岡好亀賞10年のあゆみ」を発行しました！

本年度は私ども法人の創立70周年を迎え、式典、記念誌、映像作成などの事業を行いました。愛盲報恩会近藤正秋賞・片岡好亀賞も創設10年を迎えました。愛盲報恩会では、過去に受賞された方々に大変貴重なご寄稿をいただき、これを冊子にまとめ「10年のあゆみ」として発行することができました。それぞれの分野でご活躍の皆様の含蓄ある文を是非ご一読ください。



創立70周年記念

各施設より委員を選出し実行委員会がスタートしたのは、一昨年前の2月3日のことでした。実行委員会の中で、3つの趣旨（①歴史を振り返るとともに未来のビジョンを考える②お世話になった方々への感謝③名古屋ライトハウスの存在と価値を内外に発信する）を確認した後、記念誌・式典・企画（映像制作）の3つのワーキンググループに分かれ、個々に準備を進めました。最初はなかなか方向性が定まらず心配でしたが、委員の頑張りとの協力いただいた凸版印刷様（記念誌）、ホテル名古屋ガーデンパレス様（式典）、オーファ様（映像）の的確なサポートにより無事創立記念日を迎えることができました。

また、愛盲報恩会では、近藤正秋賞・片岡好亀賞が10周年を迎えたことから、『愛盲報恩会近藤正秋賞・片岡好亀賞10年のあゆみ（2006年～2015年）』を発刊いたしました。

私事になりますが私自身も定年を迎え、この記念事業完了までが職務となりました。

今後も名古屋ライトハウスが「ひとりの幸せのために」一歩ずつ歩みを続けていくことを祈念しています。

実行委員長 武居 俊之

《記念式典》



ある利用者さんが話してくれた。「創立10周年、20周年は知らないが、創立30周年頃からなら思い出せるよ。確か現在の光和寮のデイサービスセンター4階の愛光館で式典をやって、みなで記念旅行として長島温泉に行った。そして40周年は鶴舞公園の名古屋市公会堂。節目の50周年は当時まだ新しい国際会議場を使った。この次の60周年も川島成道を招いて特別公演を行ったりもしたな」。

70周年を迎えた今年はどうか…10月17日の月曜日、まさしく創立記念日のその日だ。会場はホテル名古屋ガーデンパレス。栄の

繁華街にあり格式のある立派なホテルだ。

式典が始まり、名古屋ライトハウスの歌のBGMが流れる。確か50周年のとき新しい歌を作るという動きがあったが、これ以上の歌ができなかったとか。各拠点の功労者への感謝状の贈呈、河村名古屋市長あいさつ、そして長い撮影時間をかけて制作したビデオ上映と式は進行していく。

「うん懐かしい…。そうか、ヘレン・ケラーが2度目の来日をしたときに名古屋ライトハウスに来てくださったんだ。…次の10年も花のように気高く、獅子のようにたくましく、福祉のパイオニアであってくだされよ」と。



《記念誌》

記念誌は、「法人の歩みを記録し、支えてくださる方々への感謝を表し、未来が感じられる」、そして「少

● 物故者慰霊祭 ●

名古屋ライトハウスは創立70年の節目を迎えましたが、昭和41年、利用者の国兼将門さんの遺志を継いで国兼基金を設立、八事に名古屋ライトハウスの墓碑を建立して、ちょうど50年となりました。

節目となる平成28年度の慰霊祭は、創立記念日を2日後に控えた10月15日(土)に開催され、少し汗ばむくらいの晴天の下、合祀者のご遺族等20名・施設利用者や職員210名の出席にて執り行いました。この1年間で亡くなられた関係者14名のお名前を加え358名となった物故者芳名録を物故者之碑に納め、出席者全員で故人を偲びご冥福をお祈りいたしました。通路一杯に広がった長蛇の列を見るにつけ、その礎を作られた、ここに眠る先達の思いが実った賜物であると思うととても感慨深いものがあります。

しでもスリムに、そしてスタイリッシュに！」と編集しました。

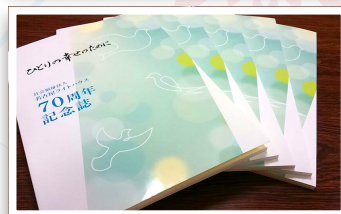
本部や各施設では過去の資料や写真をひっくり返し、白い手袋をして設立当初からの理事会議事録を一枚一枚めくりました。それらを紐解くことで当時の思いに触れ、思わぬ発見をすることもありました。

コンテスト企画「ライトハウスの未来像を考えよう！」では、職員や利用者、ボランティアの皆さんから60件を超える応募があり、たくさんの夢が語られました。受賞作品はもとより、どの作品にも熱い思い、ロマン、希望、そして願いがちりばめられていました。

企画構成やレイアウト、編集、イラストから写真に至るまで様々な“プロ”に参加していただき、かっちょよく仕上がりました。プロのお力は流石ですね。

資料編にも力を入れました。あ、紙面の限界が…。これは見てのお楽しみです。

この一冊をご覧いただければ、名古屋ライトハウスの過去、現在、そして未来が感じていただけます（自画自賛！）。書店では取り扱っておりません。読んでみたいという方は、当法人にお立ち寄りの際、お気軽にお申し付けください！



《映像作成》

法人創立70周年記念映像制作にあたり、利用者の皆様、関係機関・地域の皆様には撮影へのご協力をいただき誠にありがとうございました。

企画グループでは、名古屋ライトハウスを発信することとして、当初は名古屋駅の「ナナちゃん人形」に白杖を持ってもらい11月1日「点字の日」のPRをしてはどうか？利用者や職員の美術展覧会を開催しては？東京で常設している「ダイアログインザダーク」を名古屋で開催しては？等々という意見もありましたが今回は記念映像制作となりました。

今回の記念映像は、単なる法人紹介ではなく、後世に残せるものであり、私たちの法人が大事にしていることを伝える目的で作成しております。

完成品は20数分と短い内容になっていますが、撮影日数は20日以上、延べ撮影時間として50時間、数十年前の映像の撮りこみなど実は大変時間をかけた作品です。創立当時の状況から今日までの名古屋ライトハウスを知る上でも、「必見の1作」になっていることと思います。

映像をご覧いただいた方、これからご覧いただく方の記憶に残るものとなったのであれば企画担当者6名の笑顔に繋がります。（^◇^）



光 和 寮

秋の親和会のレク

恒例の秋の親和会レクリエーション。またまたイオンの新店舗に行きました。今回はイオン常滑です。

ここ数年の秋の親和会のレクはイオンモールが新しくオープンするたびに出かけています。さすがに千種店や新瑞店は光和寮から近すぎて行っておりませんが…。

11月3日の文化の日。気持ちよく晴れた朝、9時30分に集合。チャーターした福祉バスと、きぼう号（マイクロバス）に乗り込み出発と思いきや、きぼう号が動きません。「壊れた？明和寮に怒られてしまう！」と、結局、車椅子リフトの取扱に不備があっただけでしたが、自前のデイサービス送迎用のハイエースに乗り換え再出発。イオン常滑に10時20分頃に着くと大きな提灯が吊るされている入り口から中に入り、各班に分かれてショッピングや食事を堪能しました。新しいだけあって店内は本当に広く、ウインドウショッピングだけでも結構な運動になりました。帰りのバスではみんなお腹がいっぱいなのと、歩き疲れて静かに眠っていました。

さて、今年はどんな年になるのかな？きっと楽しい年になるでしょう。



第20回 光和寮と地域交流福祉フェスティバル

『光和寮と地域交流福祉フェスティバル』は今回で20回目を迎えました。最初は近所のコミセンを借りて細々と陶芸品を飾ったりしていましたが、今では地域の代表の方から、「この地域には福祉事業所はいくつかあるが、こんなに長く続けるのはめずらしい」とのお言葉をいただけるまでになりました。

歴代の実行委員の努力の積み重ねで、最初は陶芸品の展示程度だったものが、近年は、踊りや歌、菓子まき（今回は菓子すくい）、特に抽選会が広く浸透してきて、大勢の方に集まって抽選を楽しんでいただいています。（昔の年末の商店街を思い起こさせます）

さて今年は、地域のみなさんの出店に加え、緑風を始めとする4つの事業所からの応援を受けて、バリエーションに富んだ模擬店の品揃えになったこともあり、数年前は200名弱だった来場者が、今回は約400名の方に訪れていただけました。改めて、この地における光和寮の今後の営みの重要性を感じさせられました。

地域のみなさん、これからもどうぞよろしくお願いします！！



明 和 寮

福祉ホーム「あかり」の環境改善進行中です

福祉ホーム「あかり」は平成20年4月1日より福祉ホームとして再スタートし、定員40名の暮らす場としてご利用いただいています。安価な家賃・光熱費の負担にて個室での生活ができます。昭和54年に開設した明和寮の入所施設の建物や設備を引き継いで使っているため、随所に老朽化が目立ちますが、一部居室や設備の改修を行っています。改修後のお部屋はピカピカで快適そのものです。今後も、適宜改修を計画的におこなっていく予定です。福祉ホームにお住いの方々は、平日の日中は就労や日中活動に参加され、休日は趣味や買物等お出かけを楽しみ、自立した生活を満喫されています。現在、福祉ホーム「あかり」はお部屋の空きがあり、新たな利用者さまを募集中です。



職員研修

職員が障害理解を深め、対人援助技術を向上させていくため、昨年10月より明和寮を会場として業務を終えた夕刻から研修会を始めています。毎月同じ講座を2回ずつ行うことで、どちらかに参加できるよう業務にも配慮しながら、希望する職員等に参加していただいています。講師は内部職員のみでなく、外部の専門機関にもお願いし、今年の8月まで予定を立てています。講師をする職員にとっても、内容を組み立て、資料を作成し、分かりやすく話すよう工夫することで成長できるいい機会と考えています。

第1回は自閉症・知的障害の理解について港区障害者基幹相談支援センターの海田主任に講師を務めていただき、55名の参加があり、体験も交えて和やかに進みました。明和寮のみでなく、法人内他施設の職員にも声をかけており、交流や学びの場として貢献していく事も視野に入れています。

開催してすぐ明和寮の利用者さんから、「他の障害について学びたい」と参加の意思表示があり、ビーサポート（就労継続B型）の利用者には現場職員から声をかけ、参加できる講座には参加いただいております。法人内の職員から始まり、やがては地域の方々にもご参加いただいて、交流や相互理解の場として発展していければと考えています。



港ワークキャンパス

西部の闘争神

work Campus
Lecture plan

28年度施設内部研修始まる

ウエスタン

バトル

Western Battle

你好 谢谢 再见
晚上好
你们好
葡萄酒
炒饭
你好
晚上好
你们好
葡萄酒
炒饭
点心
谢谢



中国語担当：村松指導員

早上好
回头见
饺子
拉面
不客气
早上
回头见
不用谢
拉面
不客气
有人吗
啤酒

講座対決



手話担当：間瀬指導員



VS



それぞれの担当講師がイメージする講座風景

障害福祉のグローバル化を見据えたコミュニケーション手段として、**外国語**及び**手話**などを習得することにチャレンジする。

障害の程度に応じた就労支援の場において、手話も重要なツールである事は疑いの余地がない。

賃金向上を命題にする上では、国内販売に留まらず中国や台湾市場を「パンですよ」の輸出版売先として視野に入れる営業戦略が必要になるのは、そう遠くない現実である。

二人の職員がそれぞれ、**中国語講座**と**手話講座**の講師役として名乗り出て、これからの全4ラウンドの講習で港ワーク職員の闘争心に火を着けます。

手話は基本動作から挨拶、質問、案内、会話と進め、**中国語**は発音、挨拶、自己紹介などを学び、電話対応までも習得できるようにと意気込んでいます。

さて両講師は、どちらが成果を残し、職員の知となる講座とするでしょう？

話(わ)術、和(わ)術、環(わ)術のぶつかり合い、西部施設・ワークキャンパスの講座バトルが今、始まったのです。

緑 風

東部地域療育センターぽけっと合同 緑ぽけまつり開催!!

昨年9月10日(土)に当施設と隣接する東部地域療育センターぽけっとさんと合同で「緑ぽけまつり」を開催いたしました。当日はご参加頂いた地域の方におまつりを楽しんでいただきつつ、同時に、施設を開放する中で緑風の地域における役割を知っていただけたのではないかなと思っています。

今年も、地域への積極的参加や啓発活動を軸に交流していく中で、地域が求めていることなどを伺いながら一緒に考え、共同して取り組める事業等の開拓を目指していきます。



レクリエーションの充実

緑風は、“あなたらしい職場”を目指し、個々の目的や個性に応じた環境づくりを行っています。作業だけでなく、季節に応じた施設行事（春まつり、日帰り旅行、クリスマス会、忘年会等）のほか、土曜日には「作業orレクリエーション」の選択ができる日を設けています。レクリエーションでは、身体機能の維持やリフレッシュを目的とした様々な活動を行っています。外出レクは特に人気があり、トヨタ博物館見学ではそれぞれが思い思いに過ごし、たくさんの笑顔を見られる機会となりました。今後は利用者が主体的に活動できるよう施設行事、レクリエーション等に企画から参加してもらい、達成感を得ることができる支援を実施していきたいと考えています。



トヨタ博物館



外出カラオケ



ゴロ卓球

戸田川グリーンヴィレッジ

全国身体障害者施設協議会研究大会での実践報告

職員誰しもが起こしうる不適切な事象を未然に防ぎ、互いに認め合いながら成長し合える組織を目指すため設置された人権委員会。その仕組みや取り組みを題材とし、「互いの違いを認め、成長しあうために ～一人ひとりが考える人権意識向上～」というテーマで発表をさせていただきました。

今回、名古屋国際会議場で行われた7月21日、22日の全国大会では特に虐待防止や人権尊重の権利擁護を重要テーマとしており、他施設の人権尊重への取り組みを通し福祉施設全体での人権への関心と重要性をより一層感じ、人権委員会から普及しなければと感じました。

また、人権委員会の発表の他に、音楽療法士による「思い描く自分の理想像を音楽で表現したい ～音楽療法とフレームドラム演奏発表会での取り組み～」の発表も行い、会場スタッフとしても職員が参加して大いに会場を盛り上げました。



戸田川秋まつり

今回のお祭りは『つながろう日本中の絆！みんなの輪！』というテーマで開催しました。戸田川グリーンヴィレッジがより発展していくためには利用者さんやそのご家族、地域の方々、ボランティアさんとの絆を深めることが必要だと思ったことや、今年の春に熊本地震で被災された方へ少しでも手助けができればと思い、開催テーマにしました。

当日は、多くのボランティアや地域の方々に支えられ、約200名の方々に来場いただき、大盛況のうちに終えることができました。メインステージでは、勝笑演芸一座さんによる手品や大道芸等の演芸に始まり、職員有志によるダンス、熊本名産品を景品としたビンゴ大会等も行い、大好況でした。また、集まった募金8,500円は赤い羽根共同募金を通じて熊本への義援金として寄付させていただく予定です。また今年も施設の祭りは続きますので利用者さん・職員共に盛り上げて行きましょう!!!



名古屋盲人情報文化センター

耳より用具展2016

9月25日(日)に「耳より用具展2016～第13回視覚障害者のための機器展示会～」を開催しました。悪天候の続いた9月、奇跡的にも天候に恵まれ、約230名の来場者をお迎えすることができました。

今回のテーマは「音」。14社2団体に出展していただき、音声が出るテレビ、ICレコーダー、ラジオ、視覚障害者用ポータブルレコーダー、音を頼りに遊ぶユニバーサルデザインのボードゲームなど最新の盲人用具（家電）の展示、各種イベントを行いました。

当日企画として「中部盲導犬協会」による盲導犬歩行体験、「よし笛 湖風リード」による演奏会を行いました。歩行体験では、盲導犬歩行訓練士がマンツーマンで同行し、屋外の道路を歩く体験ができたことで盲導犬をより身近に感じてもらえました。演奏会では、よし笛の透き通る癒しの音色に魅了された来場者が会場に集まり、立ち見が出るほど好評をいただきました。

その他、ロビーでは前回に続き、当センター近くのインド料理店「ドルーガ」によるカレーライスの販売が行われ、本格的な味を求めて列ができていました。全体的にどのブースも大盛況で、大賑わいの一日となりました。



地域合同防災訓練

今年度、港楽消防団の協力を得て、地域住民の方々と合同で、防災訓練を行いました。今回の訓練では、地域住民の方々も含めて、約90名の方々が参加しました。

大地震によりセンター内で火災が発生したという想定で、職員の誘導をもとに、講座を受けられていた利用者の方々や協力ボランティアの方々、市営住宅からは地域住民の方々が市営住宅の駐車場に避難。安全確認を行い、その後、消火器や消火に便利な三角バケツの模擬消火訓練をするというものでした。参加された視覚障害者の方々からは「消火器や三角バケツに触れることもなかったため、良い体験ができた」という声も多く聞かれました。また、地域住民の方々と合同で訓練を行うのも、これまでほとんどなかったため、今後、高齢化が進んでいる住民の方々とセンターとがどのように関わっていくべきかを考えさせられる良い機会となりました。



瀬古マザー園

○「特養フロアの改修工事」

平成28年某月、特養棟の内装工事が完了しました。壁面には真っ白な壁紙、その下には温かみのある木目調の板張り、同系色の木製の手すりが調和して清潔感のある装いとなりました。

…平成元年に施設が開設されて27年、施設の内装は確実にその年月を刻み、壁紙は色あせたり所々破れている箇所もありました。廊下を端から端まで横断していた手すりも古くなり、縦幅が20cm程もあるため入所者には掴みにくく手を添える程度でした。

工事期間は約2週間、工事が終わると入所者にも職員にも笑顔が溢れ、ある入所者は壁を眺めながら「まるで違う施設に来たみたい」と話され、またある入所者は車イス上で手すりを掴み「これはいいなあ、掴みやすい」と笑顔で喜んでくださいました。

新しくなった内装はフロアの雰囲気をガラリと変え、以前に比べてとても明るくなったように感じられます。それどころか見た目の明るさだけでなく、そこで生活する入所者や働く職員まで明るくなった気さえします。

古い物をいつまでも大切に使うことも良いですが、たまには思い切って大きな変化を起こしてみるのも良いかもしれません。それが多くの笑顔に繋がるならなおさらですね。



○「みんなのマザー農園」～次は何を育てよう？

夏はパセリや青シソ、オクラなどを植え、みんなで協力して育てました！しばらく休耕し、秋には来春のイチゴの収穫を目指してみんなでせっせと畑を耕しました(´ω´;)。さて春が来たら今度は何を植えようかと思案中、乞うご期待。

